

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
令和2年度5月

○ 概要

(1) 令和2年5月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は5,573億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲8.8%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,066円（伸び率+11.7%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,365億円（伸び率▲13.9%）薬剤料が4,197億円（伸び率▲7.0%）、薬剤料のうち、後発医薬品が773億円（伸び率▲13.2%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料6,097円（伸び率+13.4%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.77種類（伸び率▲0.7%）、28.6日（伸び率+17.2%）、77円（伸び率▲2.5%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料3,376億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲271億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは11 中枢神経系用薬の597億円（伸び幅▲41億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+11億円（総額347億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,376億円 (▲271億円)	11 中枢神経系用薬 (597億円)	21 循環器官用薬 (592億円)	39 その他の代謝性 医薬品(567億円)
0歳以上 5歳未満	12.9億円 (▲13.5億円)	44 アレルギー用薬 (5.9億円)	61 抗生物質製剤 (1.4億円)	22 呼吸器官用薬 (1.1億円)
5歳以上 15歳未満	61.3億円 (▲13.3億円)	44 アレルギー用薬 (24.8億円)	11 中枢神経系用薬 (17.9億円)	39 その他の代謝性 医薬品(4.0億円)
15歳以上 65歳未満	1,177億円 (▲83億円)	11 中枢神経系用薬 (261億円)	39 その他の代謝性 医薬品(215億円)	21 循環器官用薬 (180億円)
65歳以上 75歳未満	804億円 (▲65億円)	21 循環器官用薬 (163億円)	39 その他の代謝性 医薬品(163億円)	42 腫瘍用薬 (111億円)
75歳以上	1,321億円 (▲96億円)	21 循環器官用薬 (246億円)	11 中枢神経系用薬 (221億円)	39 その他の代謝性 医薬品(184億円)

(4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,066円（伸び率+11.7%）で、最も高かったのは高知県（12,016円（伸び率+12.0%））、最も低かったのは佐賀県（8,240円（伸び率+6.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+16.5%）、最も低かったのは和歌山県（伸び率+4.6%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注)</sup>	80.7 %	+2.7 %
薬剤料ベース	18.4 %	▲1.3 %
後発品調剤率	75.1 %	+0.7 %
（参考）数量ベース（旧指標）	55.5 %	+1.0 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量） + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲13.2 %	▲2.7 % (100歳以上)	▲44.9 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.4 %	25.5 % (100歳以上)	11.6 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	80.7 %	85.5 % (100歳以上)	72.6 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	665億円 (▲120億円)	21 循環器官用薬 (210億円)	23 消化器官用薬 (93億円)	11 中枢神経系用薬 (89億円)
0歳以上 5歳未満	3.1億円 (▲4.5億円)	44 アレルギー用薬 (1.7億円)	22 呼吸器官用薬 (0.7億円)	61 抗生物質製剤 (0.3億円)
5歳以上 15歳未満	11.3億円 (▲4.2億円)	44 アレルギー用薬 (7.5億円)	11 中枢神経系用薬 (1.3億円)	22 呼吸器官用薬 (0.9億円)
15歳以上 65歳未満	227億円 (▲41億円)	21 循環器官用薬 (59億円)	11 中枢神経系用薬 (44億円)	44 アレルギー用薬 (27億円)
65歳以上 75歳未満	161億円 (▲30億円)	21 循環器官用薬 (63億円)	23 消化器官用薬 (21億円)	39 その他の代謝性 医薬品(17億円)
75歳以上	263億円 (▲40億円)	21 循環器官用薬 (87億円)	23 消化器官用薬 (45億円)	11 中枢神経系用薬 (31億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,396円	1,794円(北海道)	1,136円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+6.3 %	+12.0 % (沖縄県)	▲1.1 % (秋田県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	80.7 %	88.7 % (沖縄県)	75.4 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.4 %	21.8 % (鹿児島県)	16.1 % (京都府)
後発医薬品調剤率	75.1 %	81.1 % (沖縄県)	70.3 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.5 %	63.3 % (沖縄県)	51.6 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年5月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。